

地域包括支援センター名称	日時	参加者(関係機関等)	数	テーマ/目的	検討結果
やすらぎミラージュ	H31. 2. 19	民生委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所	30人	【テーマ】 N-impro (コンビニにおける高齢者支援を推進するための研修プログラム) 【目的】 ワークショップ(参加体験型の講座)を通じて認知症をはじめとする高齢者の心身の特徴について楽しく学ぶ。	・「日頃と異なる立場で対応を考える機会となり、勉強になった」 「様々な意見が聞けたため、認知症について深く考えられた」などの意見があった。 ・買物に留まらず、公共料金の支払いや口座からの引き出し等、社会インフラ・経済インフラとしての役割をコンビニが大きく担っていることが改めて認識できた。
大泉北	H31. 2. 12	民生委員、町会・自治会、陽和病院、薬局薬剤師、自動車販売会社、介護サービス事業所	41人	【テーマ】 高齢者の運転について 【目的】 ・認知症ドライバーの地域事例を通し、制度の現状や課題について情報共有し、それぞれの立場で地域での支えあいについて意識を高める。	・高齢者の免許更新や運転免許もの忘れ外来について情報共有し、「当事者の立場なので参考になった」との意見があった。 ・高齢者の運転には様々な課題はあるが、運転をせざるを得ない背景(買物・通院などの移動手段・生きがいや楽しみ等)があり、単に運転をやめさせれば良いという問題ではなく、難しい課題であることが確認された。
大泉学園	H31. 2. 14	民生委員、町会・自治会、訪問支援協力員、東京都動物愛護相談センター、練馬区保健所、NPO法人、介護サービス事業所、生活支援員	46人	【テーマ】 高齢者とペットの課題 【目的】 高齢者とペットの課題について考察を深めると共に、関係機関同士のネットワーク構築を行う。	・地域ケア個別会議で、認知症が進行するも、飼い猫と離れることができず、施設入所をためらっているケースを取り上げたことから、上記のテーマを設定した。 ・まだ高齢者が元気なうちに次の飼い主を見つけておく「終活」を促すことや、ペットを飼わなくても高齢者が動物と触れ合うことができる機会を増やすことなど、今後地域全体で取り組むべき具体策を共有できた。
南大泉	H31. 1. 22	民生委員、町会・自治会、老人クラブ、コンビニエンスストア、ボランティア関係者、介護サービス事業所	35人	【テーマ】 「高齢者を支える地域づくり」「N-impro (ニンプロ)」の周知 【目的】 「N-impro (ニンプロ)」を活用した高齢者を支える地域づくりや認知症高齢者への対応の理解を深める。	・「コンビニに着目したことはわかるが、店舗へ負担にならないものにするべき。」「この研修プログラムはもしものときの準備になるし、応用にもなる。」などの意見があった。 ・地域支援者の世代交代や、地域包括支援センターの名称・仕組みが大きく変わった時期でもあり、適宜、事業内容の説明や周知は必要と考える。
大泉	H31. 2. 19	民生委員、見守りボランティア、介護サービス事業所、敬老館、生活支援員	37人	【テーマ】 地域で取り組む介護予防について 【目的】 介護予防についてのそれぞれの立場の考えの共有、担当地域の関係者との連携深化、社会資源の共有を図る。	・地域の介護サービス事業所、公共施設、コンビニ・スーパー等を載せた「大泉地域包括支援センター担当地域☆社会資源地図」を全員に配布。グループワークで地図を見ながら、民生委員の活動地域を共有したり、地図上に示せなかったスーパー等の情報共有など、具体的な議論に繋がるきっかけとなり有効であった。